



# 会津放射能情報センターNEWS 21号

〒965-0877 福島県会津若松市西栄町 8-36

TEL & FAX : 0242-23-9401 携帯 : 080-6015-8036

メール : info@aizu-center.org ホームページ : <http://aizu-center.org>

公式ブログサイト : <http://ameblo.jp/mamorukai-aizu/>

Face book : 「会津放射能情報センター」で検索。

2016年12月1日発行

## 笑顔がはじけた北海道保養プログラム



今年で4回目となるセンター主催「北海道親子保養プログラム」が8月16日(火)～23日(火)に開催されました。参加者は計21名(プログラム参加者15名、引率2名、スタッフ4名)。今年は千歳栄光教会と東林寺の二ヶ所にお世話になり、思い出も二倍となりました。

千歳栄光教会のみなさま、浄土真宗本願寺派東林寺のみなさま、原子力行政を問い合わせ直す宗教者の会のみなさまのご準備と細やかなご配慮に心から感謝申し上げます。

### 参加者の感想文

#### 「福島から北海道に来て」

中学1年 佐藤大河(さとうたいが)

僕は初めて北海道に来て、まず思った事は水がすごくおいしかった事です。ふきだし公園で汲んだ水は福島の水とはくらべ物にならないほどおいしかったです。次に印象に残ったのは、みんなと仲良くなれた事です。スタッフや小学生の子や中学生と親しく話せて不安も無く七泊八日過ごせました。

もう一つ印象に残ったのは千歳の細田牧場でサッカーをした事です。サッカーを久しぶりにやってボールをとってシュートを決めたり、福島の土地ではなかなかできなかった事をしました。初めて北海道に来て北海道ならではの事をしたり、名物のジンギスカンや牛乳も飲めたり、七泊八日だけでも満喫できてとても良い保養になりました。



## ロビン・デュプリ チェロコンサート vol.3 11月12日(土)



福島に心を寄せ続けてくださるチェリストのロビン・デュプリさんが、玉置浩二全国ツアーの合間を縫って会津若松で演奏をしてくださいました。今年で3回目となる無料コンサート。参加者は美しく繊細なチェロの音色に酔いしました。また、会場に設置した「3.11甲状腺がん家族の会」へのカンパ箱には多くの献金33,748円が寄せられ、センターより送金させていただきました。



イラストbyにほ  
このイラストは甲状腺がんで闘病している子の作品です。

# 第6回会津放射能情報センター総会報告

会津放射能情報センター代表 片岡 輝美

2016年10月15日会員22名が出席し第6回センター総会が開催されました。設立時から活動の柱である「数値の収集と情報の発信」と「人の思いに寄り添う」を基軸に働きが展開され、20頁に渡る報告に約2時間費やされました。

第5期の一つ目の目標は「遠隔地在住会員との交流」でした。センター設立から数年後安心できる県外で子育てを決心し移住した会員や、経済的理由や家族の事情により帰還した会員がいます。その会員同士のつながりをさらに深めるため、3月末会津若松市内の温泉で一泊お泊まり会を開きました。施設内で元気に子どもたちが走り回っている時、母親たちはしゃべり場を持ちました。移住先や帰還先、また避難先である会津若松で、どこに居ても消えない健康不安やさらに深まる日本政府への不信感、すれ違う家族の様子など、どの思いも原発震災がもたらした理不尽な苦しみそのものでした。また時折、自宅に戻った会員がセンターを訪れ、日常抱えている思いを吐露していきます。北海道保養プログラムにも遠隔地に住む親子が参加し、母親同士の交流が生まれました。センターには、来館者の繋がりだけでなく、距離的に離れていても心を繋げる役割があると知らされた1年でした。二つ目の目標は「地域への情報発信」でした。会津地方の月刊情報誌に、健康相談会やしゃべり場の案内を掲載しました。新設HPを見て、しゃべり場や個別の相談に足を運んだ人々もいます。4か月に渡り代表インタビューが掲載され、通りで声を掛けられた時も少なくありません。心の奥底で原発震災に不安を持つ人々に、センターの情報が届くことを願っています。第6期もこの二つの目標を継続していきます。

第6期新たに提案されたのは、ホットスポットファインダーの活用とセンターマイクロバスで三春町に開館した「環境創造センター」見学です。環境創造センターは放射線や福島の環境に関する展示や世界に数台しかない360度全球型シアターがある施設です。県内小学5・6年生は皆、校外学習として行き、福島の復興を学びます。教育が復興に利用されていることにも、私たちは関心を持ちたいと思います。総会の意見交換では、昨年度末から1月にかけて行政に働きかけを行ったリアルタイム線量計撤去反対運動が取り上げられました。原子力規制委員会により、今後県内のリアルタイム線量計のほとんどが撤去され、避難区域解除となった地域に移設されます。その反対運動をリードしたセンター会員から、住民が声を挙げることによりその地域の線量計の撤去を阻むことができたと報告がありました。地域住民の訴えにより行政を変える可能性があること、それこそが民主主義の原点であるとの共通の理解を持ちました。

裏面に第5期センター決算を掲載します。皆さまからいただいた温かく大きなご支援により多様な働きができましたこと、感謝を持って報告致します。原発震災の課題は山積し、その様相はより深刻になっています。私たちの力で、その課題が解決するのは困難です。しかし、何もしなければ、未来は変えられないのです。ここから命どう宝の社会を実現する一步を踏み出していくましょう。



片岡代表からの報告



リアルタイム線量計撤去反対運動について経緯説明



6期もよろしくお願ひいたします

4月に熊本で深度7、10月には鳥取で深度6弱、そして11月には再び福島で震度5弱の地震が起きました。日本列島は地震の巣だと思い知らされた2016年でした。

熊本は、大きな地震が来ないとされていて福島からの避難者も多い場所です。度重なる揺れで、家屋が累々と破壊され、名城とうたわれた熊本城が大きな被害を受けた姿に息をのんだことも記憶に新しいことです。

「熊本・原発止めたい女たちの会代表」代表の永尾佳代さんは、その熊本地震を体験された方です。「地震と原発」。地震国日本が向き合わねばならない問題です。永尾さんの貴重なご体験から学ぶことが多いのではないかでしょうか。



前震、本震という言葉が初めて使われた熊本地震。4月14日夜の前震は驚きはしたが、さほど被害はなかった。一日おいてその深夜に本震が来るなど誰も思っていなかった。16日深夜、孫の守で疲れ居間のソファでうとうとしていた時であった。いきなりドーンと下から突き上げるような揺れがあった後、家中がミシミシと激しく横に揺れ続けた。スマホが「地震です、地震です」と叫んでいる。反射的に前の座卓に潜り込んだ。木造の家は大きな怪獣が持ち上げてゆすり続けているかのようだ。この世の終わりかと思った。

座卓は窮屈なので、ダイニングテーブルの下に移動。スマホがブーブーと鳴っている。娘が心配しているのだろう。周りは真っ暗。まず、懐中電灯を探しに玄関に行く。灯りを確保して眼鏡を探し、またテーブルの下に潜り込んで返事をした。娘はもう私はダメかと思ったそうだ。LINEだったから即家族中の安否の確認ができた。このスマホとLINEにどれほど助けられた事か。家族がつながっているという安心感は大きかった。

近所で茶碗の割れる音がする。外が騒がしいので出てみると、皆家中は危険なので車で近所の空き地に行くという。私は一人住まいなので、深夜の車中泊もできないと思い、娘の家の近くに行くことにした。結局、その日は娘のマンションのソファアで休んだ。夜中に何度も余震が続いたが、4歳と11ヶ月の孫たちを連れて車中泊は難しいとそのまま家に留まった。何かあっても娘家族と一緒にあればいいと覚悟した。

翌朝の夜明けとともに家に戻ってみると、前夜に落ちた屋根瓦を近所の人が、家の駐車場に拾って集めてくれていた。道路に落ちていて危険だったらしい。深夜だったからけが人がいなくて良かったが、昼だったらと思うとゾッとした。電気、水道、ガスすべてが止まっていた。家の中は本棚が倒れ、散乱し滅茶苦茶だった。リビングの本棚の本が、玄関との通路をふさぎ、トイレ前の本棚も倒れトイレを塞いでいた。書斎では2つの本棚が倒れ部屋中が本で埋もれていた。2階の和箪笥が部屋の中央にドンと倒れていた。クローゼットのハンガーも壊れ洋服が滅茶苦茶になっていた。2階の揺れが相当激しかった事が分かった。

近所の人々がガレキをトラックに積み込んでいたので、急ぎ我が家のガレキも持ち出した。家の周りに落ちていた諸々も近所の人たちが庭に入って片付けてくれた。こういう時の近所力というのはすごいと思った。有難かった。が、感動に浸っている場合ではなかった。

先ほどから福岡にいる子供たちから盛んにメールが届いていた。「地下水が濁っている。水の復旧には時間がかかる。赤ん坊がいるのだから福岡に出てこい」と次女。「道路が通行止めになれば出ることもできなくなる」と長男。確かにそうだ。赤ん坊連れで避難所暮らしはつらすぎる。福島の事故後、多くの避難者の話を聞いていたので、早く決断することができた。旅支度を整え、冷蔵庫の生ゴミを捨て、電気のブレーカーを落とし、近所の人に携帯番号を告げて10時には家を出た。滅茶苦茶の家の中はそのままに。

ミニバンの私の車に毛布やオムツ、水、衣類などを積み込んで、植木インターを目指し大渋滞の中、街まできたが、国道3号線は通行止めであった。北署前でUターン。あきらめて家に帰ろうとしたが、次女があきらめない。「菊水インターから高速に乗れる」という。河内経由の道は行ったことがない。新港から海沿いの道、津波も怖い。家に戻るか進むか、迷いに迷った。

しかし帰り道で見た光景は異常だった。行く当てもない若い人々が公園にたむろし、コンビニもガソリンスタンドもすべて閉まっていた。一つだけ開いていたコンビニも、私がお金をおろした直後、閉店した。スーパーの駐車場は満杯だったが、車は車中泊している避難者の車だった。店は開いておらず、店の外でわずかな菓子類が売られていた。店内のびん類が割れ、酒のにおいが充満していた。

一夜にして熊本は被災地になっていた。その光景を見て長女が決心をした。河内には行ったことがあるから自分が運転すると、自分の車でないのにハンドルを握った。“女は弱しされど母は強し”である。「希望のある方を選ぼう！」次女たちの言葉に押されながら私たちは新港を目指した。

河内経由の道路は右は崖、左は海。道路は1車線で対向車はダンプカー等、大型車ばかり。生きた心地もしなかった。途中、通行止めに会い万事休すかと思ったが、迂回路をナビが示し、無事に高速に乗ることができた。次女の家に着いたのは夕方6時。なんと8時間もかかっていた。もし、川内で原発事故があつていれば確実に被爆していただろう。

熊本脱出から10日後、4月26日。私は4歳の孫娘を連れて、天神の九電前テント村を訪問していた。チエルノブリ事故から30年目でもあったので、九電ビルの中に入って担当者に話をした。

「私たちは熊本から避難してきている者です。地震避難はしかたないけど、原発避難者を出すようなことはやめてほしい。川内原発は即止めてほしい」「震災避難は被災地だけだけど、原発避難は九州全域に及びますから」と。

避難者となって福島からの避難者の気持ちが少しばかり分かるような気がした。しかし、私たちは帰るところがあるが、彼らの帰宅は今も困難であるというところが決定的に違う。しかしながら、余震が2000回と続く今、まだ予断は許さない。熊本が第2の福島にならないという保証はどこにもない。



## ■2016年7月～2016年11月活動報告■

### ■7月

- 7日 センター7月役員会  
8日 住まいを奪うな！ひだんれん福島県庁交渉@福島市 片岡輝美  
9日 来館：種市靖行医師・今田かおる医師  
10日 子ども脱被ばく裁判の会原告弁護団意見交換会@東京片岡輝美  
12日 来館：千歳栄光教会ト部康之牧師 北海道保養プログラム打合せ  
14日 山崎知行医師個別相談2名  
  
夜のしゃべり場5名 大阪教区核問題研究会  
15日 山崎知行医師学習会&しゃべり場：予防接種について11名子ども3名  
16日 山崎知行医師個別相談3名  
29日 報告@東日本YWCAカンファレンス山形学院高校60名 片岡輝美・謁也  
30日 小林恒司医師しゃべり場7名 個別相談3名

### ■8月

- 1日 報告@小山友の会60名 片岡輝美  
2日 報告@浦和友の会60名 片岡輝美  
3日 来館：「月桃の花」歌舞団 神子幸恵さん・親家宣保さん  
7日 報告@教育科学研究会 大東文化大学15名 片岡輝美  
8日 第6回子ども脱被ばく裁判口頭弁論@福島市 片岡輝美・酒井恭子  
9日 第2回ひだんれん県交渉・幹部会 片岡輝美  
9日 北海道保養オリエンテーション  
12日 第2回甲状腺検査15名  
13日～18日 センター夏季休館  
15日 報告@東北教区主催夏季ワーク＆台湾ユースミッション2016  
猪苗代教会50名 片岡輝美

- 16日～23日 北海道保養プログラム@千歳栄光教会＆東林寺 幼児1名・小学生10名・中学生2名・保護者4名・スタッフ4名 引率：片岡謁也・輝美  
27日 報告@さよなら原発・米沢 60名 片岡輝美

### ■9月

- 1日 報告@会津地区教会婦人会研修会28名 報告：片岡輝美  
証言：野木晃子・渡辺洋子  
2日 教団青年国際会議 in 京都2017準備会@教団事務局 片岡輝美  
3日 小林恒司医師しゃべり場4名 個別相談3名  
6日 第47回みんなの伝道協議会現地研修フクシマコース案内 片岡謁也  
5日 センター9月役員会  
10日 来館：仙台北教会四季の会15名  
14日 第24回福島県民健康調査検討委員会@福島市 酒井恭子  
14日 山崎知行医師学習会「予防接種について」&しゃべり場11名  
夜のしゃべり場4名  
14～15日 山崎知行医師個別相談11名

### ■10月

- 1日 小林恒司医師個別相談2名  
5日 報告@五所川原教会20名 片岡輝美  
6日 報告@青森県立五所川原高校PTA校内研修会18名 片岡輝美  
6日 報告@米国合同メソジスト教会婦人部@仙台13名 片岡輝美  
6日 土井敏邦監督取材 渡辺洋子さん  
8～9日 報告@第20回「韓国ソウルチエイル教会・西片町教会」日韓合同修養会50名 片岡輝美

- 11日 センター会計監査 高橋真美さん・佐々木昭代さん  
12日 第7回子ども脱被ばく裁判口頭弁論@福島市 片岡輝美  
15日 第6回会津放射能情報センター総会21名  
17日 教団国際青年会議実行委員会@東京  
20日 しゃべり場10名

- 28日 来館：東京教区南支区8名  
30日 報告@阿佐ヶ谷東教会15名 片岡輝美

### ■11月

- 2日 会津若松市除染土移送に関する公文書開示請求 片岡輝美  
4日 Save the Children JAPAN主催放射能リテラシーワークショップ@郡山 片岡輝美  
5日 来館：ICU同窓会栃木19名  
5日 会津若松市除染土に関する要望書論点整理3名  
7日 会津若松市除染土に関する要望書論点整理5名  
8日 日本政府及び福島県交渉@参議院会館「災害救助法に基づく応急仮設住宅・みなし仮設住宅の無償供与継続、東京電力原子力災害被災者救済のための住宅保障を求める交渉」片岡輝美  
9日 11月センター役員会  
12日 ロビン・デュプリさん チェロライブvol.3  
17日 山崎知行医師学習会「薬について」としゃべり場11名  
17日～19日 山崎知行医師個別相談7名  
19日 山崎知行医師学習会「薬について」としゃべり場6名  
18日 来館：キリスト教保育所同盟・京都13名  
20日 メッセージ・報告@富士見高原教会46名 片岡輝美  
21日 メッセージ@山梨英和学院大学 片岡輝美  
26日 来館：バプテスト連盟5名

## ■ 感謝報告 (2016年6/11～2016年11/24) ■

いつも当センターをお支えくださりありがとうございます。会費・協賛金および支援品によりお支えいただきました方々のお名前を記載させていただきます。敬称は略させていただきます。また、特記なき教会はすべて日本基督教団です。万が一記載落としがありましたらご連絡くださいますようお願ひいたします。

### ■個人

平出節子 佐藤美香 安井廸子 大竹桃子 三吉明 内藤新吉 斎藤成二 橋口洋一 山崎喜美子 島村紀美子 小林明 東谷誠 山田美千子 曰向恭司 片岡自由 沖田忠子 矢柳かほり 依田すみ江 大竹隆 梶原美穂 菅野美意子 寺島順子 浅野建児 五十嵐明日香 立岩秀彦 佐々木昭代 高橋真人 市川真紀 加藤ひろ子 佐瀬朋子 酒井恭子 野木晃子 渡部政子 大塚好子 小林由美子 渡邊純枝 片岡謁也 片岡輝美 川延京子 高橋容子 渡部里美 吉川綾 島田知子 平田より子 阿部千春 古郷千鶴子 渡辺洋子 五十嵐進 熊田正志 戸張あかり 木幡ますみ 小板橋秀見 塚原善行 河原田美哉子 星幸恵 牟田青子 安井修二 山崎知行 < ずめよし 藤川正浩 西川・仲埜・山口・布野 ニコライ・グロウブ 田伏和子 鈴木道也・摩耶子 今田かおる 蓮尾公子 福田正美 遠山幸子 安孫子発代 長谷川敏夫 島香美 山口朗 中山拓治 石橋宗明 米加田周子 加藤千代 竹内和夫 下川潤 春木谷恵

### ■団体

日本福音ルーテル穏台教会 大阪教区核問題特別委員会 幕張教会 甲府 YWCA 上岩出診療所 鎌倉恩寵教会 河内松原教会 東神戸教会・野の花の会 長岡京教会 真駒内教会教会学校 桑名教会マナの会 震災支援グループ麦の会 原子力行政を問い合わせる宗教者の会 東林寺 小山友の会 浦和友の会 中野桃園教会 倉知安伝道所 SOWERS宗田光悦・宇多子 札幌キリスト教会 さようなら原発・よねざわ 六角橋教会 日本キリスト教団全国教会婦人会連合 四街道教会 仙台北教会四季の会 千里聖愛教会 神戸教会「放射能から子どものいのちを守る募金」 藤沢大庭教会 篠面教震災支援献金活用検討会 千歳第二幼稚園 東京教区南支区 救援活動委員会 岩国教会 ICU 栃木 横浜港南台教会 室蘭知利別教会らばっこクラブ 保育所同盟京都地区 東所沢教会 札幌北部教会 甲東教会 五所川原教会 桜美林学園キリスト教センター

### ■支援品

四国教区 千歳栄光教会 九州ラバーズ鳥栖牧瀬 チェルノブイリの子どもを救おう会久保田護 北岡美佐子 榮まり子 中村純子 山階顕雄 加藤陽子 矢田喜代子 BIGFAMILYFARM 札幌北光教会 利別教会 中村純子 太平こどもの家 室蘭めばえ幼稚園 熊野ナオミ





## センターからのお知らせです

### 会員募集と年会費納入に関するお願い

■これまでのお支えに深く感謝いたします。

会費や協賛金のご送金は、なるべく「ゆうちょ銀行払込取扱票」をご利用ください。納付状況などご不明の点があれば、センターまでお問い合わせください。また、御入用の場合は払込取扱票をお送りしますのでご連絡ください。

・年会費：個人 3000 円 団体：5000 円

・振込先のご案内

<ゆうちょ銀行口座>

・記号：02270-2 　・番号：116030

振込先名：会津放射能情報センター

<他銀行からゆうちょ口座への送金場合>

・店名：二二九 　・店番：229

・預金種目：2 当座預金 　・口座番号：0116030

■センター連絡先

tel & fax 0242-23-9401

携帯 080-6015-8036

メール Info@aizu-center.org

開館日 水木金土 10:00~16:00

### メーリングリスト（ML）登録に関して

■ML はセンターからのお知らせや会員同士の情報をネット上で交換する場です。登録された方には滞りなく届いているでしょうか。最近、届かなくなったりなどの不具合が生じた場合には、センターまでご一報ください。

### メールアドレスとホームページに関して

■メールアドレスが変わりました。

info@aizu-center.org

■ホームページが新しくなりました。

<http://www.aizu-center.org/>

HP を見てセンターにつながる方々も増えてきました。NEWS でご案内していない情報もございます。ぜひご覧ください。



冬季閉館日は 12 月 23 日（金）～1 月 5 日（木）までとなります。



次のプログラムは寄せられた会費・協賛金によって行われています

食品測定・健康相談会・尿検査・保養プログラム・にいがたはうす宿泊・学習会・裁判支援など



新しいプログラムが増えました

センターに寄せられるさまざまな声を反映したプログラムが生まれています。

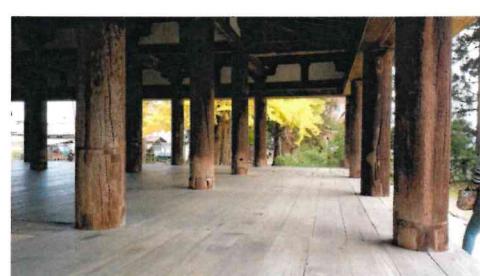
#### 夜のしゃべり場

「しゃべり場に参加したいけれど、仕事がある間は参加できない」という声から生まれました。

山崎知行医師が来館される隔月ごとに開かれます。

#### 甲状腺検査

「我が子の検査に立ち会い直接医師から説明を受けたい」との当たり前の思いに応え実現しました。



#### ～編集後記～

喜多方市の新宮熊野神社の大イチョウは樹齢 600 年ともいわれており神木となっています。落葉がまるで黄色の絨毯のようになり、拝殿「長床」とのコントラストは秋の会津路を代表する風景です。（朋）